

megumi に乗ってびわ湖の中をのぞいてみよう!! ①

2015年は子供たちが参加しやすい夏休みに入った時期に環境学習船 megumi による親子環境学習を連続して2回開催することにしました。今日7月24日がその第1回目です。保護者18名、児童26名が参加しました。その他に講師の方やスタッフ等が乗り組んで9時45分に大津港を出航しました。台風12号の影響もまだ受けずに好天の下実施できたのは何よりでした。

オリエンテーションの後、立命館大学の熊谷先生（びわ湖トラスト理事）から琵琶湖についていろいろ教えていただきました。ビデオを使用して、子供達とも気さくなやり取りで好評でした。

先生のお話がすむと透明度板の作成です。親子が協力して透明度を測定するための透明度板（セッキ板）を作成しました。組み立て図を見ながら、またスタッフに教えてもらいながら組み立てました。出来上がった組から海中に投入し湖水の透明度（直径30cmの白い円盤を水中に沈めて見えなくなるまでの水面からの距離）を測定しました。北湖の観測地点では5～6mの値が得られました。



透明度の測定が終わると今度はプランクトンの顕微鏡観察です。立命館大学の中島先生（びわ湖トラスト理事）に手伝ってもらい湖中からプランクトンを採取しました。いよいよお待ちかねの顕微鏡観察です。プランクトンを見つけるのに苦労した子供さんもありましたが先生や学生さんに教えてもらいながら観察しました。



北湖でのプランクトン観察のハイライトは、採取したサンプルの中に中島先生がびわ湖にしかない植物性プランクトン「ピワクンショウモ」を見つけて、その顕微鏡写真をモニターに映してもらったことです。（右の写真がそれです。）



午前の部を終了して昼食をとりながら沖島へと向かいました。途中びわ湖に浮かぶ沖の白石、多景島の周りを通っていただきました。沖島に上陸後、約1時間の自由散策で沖島と触れ合いました。漁業会館で売っていた「よそのコロッケ」（ブラックバスの入ったコロッケ）が人気でした。



沖島を出航して大津港への帰途に着きました。船内で琵琶湖汽船の中村さんが湖面と湖底の温度差で水が循環する「びわ湖の深呼吸」のモデル実験をやってくださいました。また「ミクロの生態系」というビデオが放映されびわ湖の多様なプランクトンやプランクトンの生態を学びました。皆さん熱心にビデオを鑑賞しました。



16時に大津港に帰港停泊して、再び透明度の測定とプランクトンの採取、観察を行いました。北湖との違いを見るためです。



南湖の透明度は1～2mで北湖に比べ濁っていることがわかりました。採取湖水の中のプランクトンも南湖の方が多く、北湖より顕微鏡で見つけやすいようでした。南湖の顕微鏡観察のハイライトは卵をかかえたミジンコが見えたことです。(右上のモニター写真がそれです。)

全ての予定を無事終了、下船してみんなで集合写真を撮って16時40分に解散しました。



最後に本行事を共催、助成頂いた公益財団法人平和堂財団と協賛頂いた琵琶湖汽船株式会社に厚く御礼申し上げます。

(藤田理事 記)